

<p>Overview: 私たちは、キリストのからだの建造のために集會し奉仕する聖書的な道に関して、主から受けた光と啓示についての重点を見て、実行しなければなりません。私たちは主と一になり、主と協力して、新約の福音の祭司の体系を回復しなければなりません。私たちは、キリストのからだを建造するために、集會し奉仕する聖書的な道を実行するために、復興された生活を持つ必要があり、また主に対する私たちの愛から流れ出る牧養の労苦を持つ必要があります。毎日、私たちは更新を必要とします。そして、この更新は、日ごとに新鮮にされなければなりません。</p>	<p>I. 私たちは、キリストのからだの建造のために集會し奉仕する聖書的な道に関して、主から受けた光と啓示についての重点を見て、実行しなければなりません: A. 私たちは、福音の祭司として機能して、人を訪問することによって福音を宣べ伝え、人を救わなければなりません。 B. 私たちは、新しい信者の家で集會し、彼らを養い、はぐくまなければなりません。それは、私たちの実が残るためです。 C. 私たちは、バイタルグループの集會を通して聖徒たちを教え、成就し、その務めの新約の働きへと、キリストのからだの建造へと至らせなければなりません: 1. バイタルグループの集會で、信者たちは互いに交わり、とりなしをし、互いに顧み、牧養し、互いに真理を教え、学び、靈的な命の成長を追い求めることで互いに導く必要があります。そして、福音を宣べ伝えること、新しい人を顧みること、小組の集會を行なうこと、召会生活においてあらゆる種類の奉仕をすることを推し進める必要があります。 2. バイタルグループの集會は、召会の生活と奉仕との主要な部分です。 D. 私たちは、聖徒たちが召会の集會で預言することを追い求め、願い、主のために語り、主を語り出し、主を互いに供給し、相互性の中で互いに語り、聞くように導いて、聖徒たちと召会を建造しなければなりません: 1. このように預言することは、あらゆる信者ができることであり、またすべきことです。2. 召会を建造するためにこのように預言することは、すべての賜物の中で最も卓越したものであり、I コリント第14章で使徒パウロによって強く勧められています。』 E. 召会は、手順を経た三一の神によって彼の神聖な三一の中で生み出された、神と人とのミングリングである有機体です: 1. この有機体の構成は、有機的であって、組織的ではありません。 2. この有機体の建造は、神の命の成長を通してであって、人の手の働きによるものではありません。3. この有機体は、神の命の中で一であって、いかなる区別や分離もあり得ません。4. この有機体のすべての活動は、その中で働く命によって導かれ、推し進められます。</p>	<p>F. エペソ第4章11節から16節の啓示は、回復されなければなりません: 1. 賜物のある人がすべての聖徒を成就するのは、すべての聖徒が新約の務めの働きを行なって、キリストのからだを建造するためです(12節)。2. 賜物のある人は、キリストのからだの中の供給の節です。成就された聖徒たちは、キリストのからだの中のそれ自身の度量に応じた活動をする「それぞれの部分」です(16節前半)。 3. 供給する者としての賜物のある人は、キリストのからだを結び付ける骨組みを形成します。機能するそれぞれの肢体は、からだの中の内容である構成要素となります。両者が一緒になって、からだは調和され、組み合わせられ、共に建造されます。』 G. I コリント第14章の啓示も、エペソ第4章11節から16節の啓示に続いて、回復されなければなりません: 1. 賜物のある人によって成就された聖徒は、預言することを追い求め、願い、主のために語り、主を語り出し、主を互いに供給すべきです。それは召会が建造されるためです。2. このように預言することは、召会を建造するためであり、また他のすべての賜物にまさっており、相互性の中で語り、聞くことです。3. このように預言することは、相互性の中で語ることと聞くことに満ちており、キリストのからだの各肢体の靈的で有機的な機能を啓発し、召会を成就し、建造します。』 H. 私たちは主と一になり、主と協力して、新約の福音の祭司の体系を回復しなければなりません: 1. 神によって救われた新約のすべての信者は祭司であり、共に普遍的な祭司の体系となります。 2. 新約の祭司の主要な職務は、福音を宣べ伝えて、罪人が救われるように導き、彼らを靈のいけにえとしてささげることです。こういうわけで、彼らは福音の祭司と呼ばれます。 3. バイタルグループの集會においてであれ、召会の集會で預言することにおいてであれ、人々を訪問して福音を宣べ伝えることにおいてであれ、新しい人たちを顧みることにおいてであれ、原則は同じです。その原則は、私たちがすべての聖徒をキリストのからだの肢体とならせて、あらゆる人を働かせ、あらゆる人を自分の度量にしたがって機能させ、キリストの有機的なからだを建造しなければならぬということです。』</p>
<p>II. 私たちは、キリストのからだを建造するために集會し奉仕する聖書的な道を実行するために、復興された生活を持つ必要があり、また主に対する私たちの愛から流れ出る牧養の労苦を持つ必要があります: A. 私たちの語っている復興とは、II コリント第4章16節で描写されている、新しくされることです。毎日、私たちは更新を必要とします。そして、この更新は、日ごとに新鮮にされなければなりません: 1. 毎朝私たちは、私たちの太陽である主イエスに、私たちの中で昇っていただくべきです。それは、私たちが新しくされることができするためです。 2. この事を達成するために、私たちはみな朝早く起きて、主と交わりを持つべきです。私たちは主に対して次のように祈るべきです、「主よ、新しい開始を感謝します。どうかこの日が、私の人生において記念すべき日となりますように」。これが、私たちが朝ごとの復興と呼ぶものです。 3. 毎朝私たちは、キリストが私たちの罪のためのささげ物であることに基づいて、キリストを私たちの全焼のささげ物また平安のささげ物としてささげて、新しい開始を持つべきです。私たちは、この事を毎日行なわなければならないだけでなく、この事を甘さをもって、また深みをもって行なわなければなりません。4. 日ごとに新しくされる復興を持つことは、日ごとに新鮮である造り変えを持つことです。もし私たちが全生涯にわたってこのような造り変えの中にとどまるなら、私たちは主の命の中で成長して、ついには円熟するようになります。』</p>	<p>B. 私たちは勝利の生活をして、主に対する私たちの愛から、私たちの持っているすべてを主にささげ、また力を尽くしてあらゆる時間を贖い取って、人々と接触し、彼らを牧養し成就する必要があります: 1. 私たちは、だれかが病気であったり、だれかが問題に遭遇しているのを聞いたらすぐに、彼に対して関心を持ち、彼のために祈り、彼を訪問しに行かなければなりません。このように少し関心を持ち、祈り、訪問することが与える効果は、十のメッセージよりもはるかに大きいです。 2. もし私たちが主に対して心を持っているなら、今から毎日私たちは復興を持ち、勝利の生活をし、あらゆるものを主のためにささげ、力を尽くしてあらゆる時間を贖い取って、一人ずつ人々を顧みるべきです。3. 私たちが牧養するときに行なうべきもう一つの重要な事は、集會の前と後に人々と接触することです。</p>	<p>C. こうすることによってのみ、エペソ第4章11節から16節におけるキリストのからだの有機的な建造と、I コリント第14章26節における相互性の集會は、私たちの間で実現され、実行されるようになります。このために私たちは、「毎朝復興、日々勝利」を基礎として持つ必要があります。私たちはまた、主に対する私たちの愛から流れ出る生活と働き(復興された生活と牧養の労苦)を持って、私たちの勝利を維持する必要があります。』</p>

第一日: ルカ10:2 「収穫物は多いが、働き人は少ない。だから、収穫物の主が、彼の収穫物のために働き人をせき立てて送り出してください、彼に祈り求めなさい」。

ヘブル10:24 また互いに願ひて、愛と良いわざに励み合おうではありませんか。

25 …私たち自身の集会を放棄してはいけません。むしろ、互いに勧め合ひましょう。かの日が近づいているのを見ているのですから、ますますそうしようではありませんか。

第二日: エペソ1:22 また神は、…彼(キリスト)を万物の上にかしらとして召会に与えられました。23 この召会は、キリストのからだであり…。

4:11 そして彼ご自身は、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、…ある人たちを牧する者また教える者として与えられました。12 それは、聖徒たちを成就して、その務めの働きへと、キリストのからだの建造へと至らせるためであり。

13 ついに私たちすべては、その信仰の一に、また神の御子を知る全き知識の一に到達し、一人の完全に成長した人に到達し、キリストの豊満の身の丈の度量にまで到達するのです。14 それは、私たちがもはや幼子ではなく、波にもたせられたり、教えのあらゆる風によって吹き回されたりすることがないためです。この教えは、誤りの体系をもくろむこうかつな人の悪巧みです。15 むしろ、愛の中で真実を固く保って、私たちはすべての事で、彼すなわちかしらであるキリストの中へと成長し込むのです。

第三日: Iコリント14:31 なぜなら、あなたがたはみな一人ずつ預言することができるからであり、それはすべての人が学び、すべての人が励まされるためです。

1 愛を追い求めなさい。また霊の賜物を、特にあなたがたが預言することを、熱心に願ひ求めなさい。3 ところが預言する者は、建造と励ましと慰めを、人に語るのです。

エペソ4:16 この方から、からだ全体は、その豊富な供給のあらゆる節々を通して、またそれぞれの部分の度量に応じた活動を通して、結合され組み合わされ、からだを成長させ、愛の中でそれ自身を建て上げるに至るのです。

第四日: ローマ15:16 それは、私が異邦人へのキリスト・イエスの奉仕者となり、神の福音の労苦する祭司となるためであって、ささげ物である異邦人が聖霊の中で聖別されて、受け入れられるためです。

Iペテロ2:5 あなたがた自身も生ける石として、霊の家に建造されていながら、聖なる祭司の体系となって、イエス・キリストを通して、神に受け入れられる霊のいけにえをささげなさい。

第五日: IIコリント3:18 しかし、私たちはみな、主の栄光をおおいのない顔をもって、鏡のように見つめ、そして反映して、栄光から栄光へ、主と同じかたちへと徐々に造り変えられていきますが、それはまさに主なる霊からです。

4:16 こういふわけで、私たちは落胆しません。それどころか、私たちの外なる人が朽ちていっても、私たちの内なる人は、日ごとに新しくされていきます。

ローマ12:2 またこの時代にかたどられてはいけません。むしろ、思いが新しくされることによって造り変えられなさい。それは、何が神のみこころであるか、すなわち何が善であって、喜ばれ、完全なものであるかを、あなたがたがわかまえるようになるためです。

第六日: ヨハネ21:16 イエスはまた二度目に彼に言われた、「ヨハネの子シモンよ、あなたは私を愛するか?」。ペテロは彼に言った、「はい、主よ。私があなたを愛していることは、あなたがご存じです」。イエスは彼に言われた、「私の羊を牧養しなさい」。17 イエスは三度目に彼に言われた、「ヨハネの子シモンよ、あなたは私を愛するか?」。…イエスは彼に言われた、「私の羊を養いなさい」。

Iコリント14:26 それでは兄弟たちよ、どうなのですか?あなたがたがいつも集まるときには、それぞれの人に詩歌があり、教えがあり、啓示があり、異言があり、解釈があります。すべての事を、建造のために行ないなさい。

Iペテロ5:2 あなたがたの間の神の群れを牧養しなさい。強いられてではなく、自ら進んで、神にしたがって監督し、卑しい手段で利得を求めることによってではなく、熱心に監督しなさい。

経験①: 神の定められた道、生養教建を実行する

新しい道で私たちが学ばなければならない四つの段階があります。…私たちが学ばなければならない第一段階は、福音を宣べ伝えることです。第二段階は、初信者を養うことです。第三段階は、彼らを教え成就して、有用にすることです。これらの三つの段階は、生むこと、養うこと、教えることです。第四段階があり、それは建造することです。

「生む」、「養う」、「教える」という言葉はすべて、聖書の中に見いだすことができます。例えば、パウロは言いました、「私が…福音を通してあなたがたを生んだからです」(I コリント 4:15)。…生んだ後、養いがあります。…パウロはまた言いました、「むしろ、私たちはあなたがたの間で、養う母が自分の子供たちをはぐくむように優しくしました」(I テサロニケ 2:7)。…新しい人が生まれると、養われる必要があります。そのときはじめて彼は成長します。第三段階は教えることです。パウロは養う母のように、養いはぐくむとだけだけでなく、父のように、勧め、慰め、教えたと言いました。…教えることは人々を成就します。

この教えることと成就することの大部分は小組の集まりにおいて起こり、小組の集まりは五つの主要な項目を含んでいるべきです。それは交わり、とりなし、顧み、真理を教えること、命における成長を助けることです。…私たちが共に集まると、自然に交わりがあるべきです。交わりはとりなしの必要をもたらす、この交わりととりなしから、互いの顧み、心遣い、牧養が発展します。その後いくらかの真理の学びと教えがあり、命におけるいくらかの助けがあるようになります。…これはすべて有機的に、また自然に行なわれなければならない。互いの交わりは開かれていて、自然であるべきです。互いのとりなしも誠実で、自然であるべきです。…このような有機的な集会は、ヘブル人への手紙第 10 章 25 節が「私たち自身の集会」と記述していることです。このような集会は、家族的な集まり、ごく自然で相互性の交わりであり、その中である人たちが質問したり、他の人たちが答えたりします。互いに教えることと互いに学ぶことがあります。…ある人が救われて何年であっても、救われて間もなく、他のすべての人のように語ることができます。…聖徒たちが成就され、真理の中の知識を持ち、命における経験を持った後、彼らは自然に神のために語る、すなわち預言することができるようになります。

在職青年編

神の定められた道は、あなたが「生み」、「養い」、「教え」、「建造する」ことです。仕事が忙しいので一つくらいならまだしも、四つともできないと考えてはいけません。「生養教建」は、神の定められた道ですので、だれもそれを変えることはできません。また、それは実行可能なので、あなたに要求されています。あなたは神の定められた道を変えようとするのではなく、自分の観念を変えるべきです。以下の詩歌を歌ってください。

- おもいだそう ダビデのちかいを わがやいらす まどろみあたえず
主のためところを見いだすまでは 全能者の住まいを もとむまでは
- 主のいえ、いま 荒れすたれている 盲もくなわれ つらぬきたおせよ
やま行き、木を切り いえを建てよう いつかと言わずに ときはいまぞ!
- 霊を感動され 主のいえのために ダビデの日の ようにのこるものよ
主のいえの作業に とりかかれよ ながねがいわがねがい 建造をもとむ!
- 建造にすべて ささげるものあり やすまずいま そなえをするとき
建造された教会に よみのもんも 打ち勝つことなし 主を賛美せよ!

経験のある人は皆、証しすることができます。忙しい在職生活の中で、時を贖い、神の定められた道を実行すれば、神はあなたのビジネス・ライフを大いに祝福して下さいます。

経験②: 早寝早起きして、毎朝復興を実行する

あなたがたはみな朝早く起きるべきです。しかし、朝早く起きるために、あなたは早く寝なければならないなりません。…朝早く起きることは、クリスチャンに多大な益をもたらします。毎朝、太陽が昇るとき、それは私たちが起きて、主と交わりを持つ時間です。私たちは主に對して次のように祈るべきです、「主よ、新しい開始を感謝します。どうかこの日が、私の人生において記念すべき日となりますように」。一方で、私たちはそのような新鮮な献身を持ち、主の御前で待ち望みます。もう一方で、私たちは主から新鮮な贈り物と照らしを受けます。このすべての新鮮さをもって、私たちは自然に復興を持ちます。これが、私たちが朝ごとの復興と呼んでいることです。…この更新は毎朝早く起こります。…私たちは起きてすぐ、主との良い接触を持つべきです。私たちがどれほど忙しくても、他の事柄がどれほど重要でも、主との接触を持つまで、それらをわきに置かなければなりません。

この主との接触は、できることなら三十分間はあべきです。少なくとも、十五分間はあべきです。これを私たちが行なうのは、とても容易であるはずで、レビ記第 6 章 12 節は、「祭司は朝ごとに薪をその(祭壇の)上で燃やし、全焼のささげ物をその上に並べ」たと言います。これが示しているのは、毎朝私たちは、キリストが私たちの罪のためのささげ物であることに基づいて、キリストを私たちの全焼のささげ物としてささげて、新しい開始を持つべきです。私たちはこの事を毎日行なわなければならないだけでなく、この事を甘さをもって、また深みを持って行なわなければならない。朝の十五分間はおもに祈りや嘆願のためではなく、むしろ主との直接の接触のためであり、それによって私たちは彼に語り、彼は私たちに語ります。こういうわけで、最も良い方法は、この時間を数節に費やすことです。それによって私たちは、主の御言を享受のある方法で祈り読みすることを通して、主で満たされることが出来ます。こうして、私たちは新しい開始と新鮮な復興を持ちます。

中高生編

クリスチャンであるあなたは朝型の生活を持つべきです。早寝早起きし、毎朝復興することは、あなたに次のようなすばらしい益をもたらします。

- 主の恵みがあなたの霊と共にあるようになります。
- 主の恵みと共に勉強することができるので、徐々に成績が上がるのが期待できます。
- 大学受験などの大きな目標に向かって前進することができます。
- 主の中で喜びがあるので、精神的に健康になり、学校生活において人間関係の試練に陥る危険性が大いに減少します。
- 弱っている友人や集会に来なくなった兄弟姉妹に関心を持ち、祈り、訪問し、顧みることが出来る心の余裕を持ちます。「祝福する魂は栄え、人を潤す者は自分も潤される(箴言 11:25)」ので、人を顧みること、あなたは顧みられます。
- 体が健康になります。肝臓などの内臓は、夜中に修復されるので、夜中に活動していると修復されません。早寝早起きは、体の健康のための重要な秘訣です。
- 学校生活で、「私たちはみな、彼の豊満から、恵みの上にさらに恵みを受けた(ヨハネ 1:16)」を経験します。主の恵みは波のように次から次へと絶え間なくあなたにやって来ます。

毎朝の復興には、10 分コース、15 分コース、30 分コースなどがあります。この時間の約 4 分の 3 は、御言葉やアウトラインの祈り読みにより、主を享受することに使ってください。その後、今日起こる出来事について祈ったり、新人のために祈ったりすることができます。しかし、あなたは復興されるために、まず御言葉の中の主ご自身に触れるため、霊を活用して御言葉を祈り読みするべきです。毎朝霊を活用して主を享受してください。アーメン!

中補 603 建造当趁今日

1. 記得大衛起誓：『我不進我的帳幕，不上我的床榻，不容我打盹閉目，直等到我為耶和華，尋得安息之處。』全能的神巴望有家 使屬祂者可住。
2. 我們何等眼瞎，只顧自己的事務，任憑神殿荒涼— 哦主，你必須有路！我們情願上山取木，為建你殿勞碌；絕不再說：『且等明日，』建造當趁今日！
3. 哦主，此時此境，激動人起來建造，正如大衛之日，自動答應你呼召。同心合意，配搭一起，受此託付，多好！我們所喜，是你心意，主，我們來建造。
4. 主，為著你召會，叫我們廢寢忘食，為建造獻一切— 專心豫備你居所！陰間的門不能勝過 已建成的召會。時候不多，建造我們，讓你能早歸回！（重複第 4 節的最後 4 行）

(Guitar: Capo 1)

A musical score for guitar with a capo on the first fret. The score is in G major (one flat) and 4/4 time. It consists of four staves of music with lyrics underneath. The chords are indicated above the notes.

1. Re - call how Da - vid swore, "I'll not come in - to my house,
 Nor go up to my bed, Give slum - ber to mine eye - lids,
 Un - til I find a place for Thee, A place, O
 Lord, for Thee." Our might - y God de - sires a home Where all His own may come.

E1248 The Church - Consecration For The Church

2. How blinded we have been, Shut in with what concerns us; While God's house lieth waste— Lord, break through, overturn us; We'll go up to the mountain, Bring wood and build the house; We'll never say, "Another day!" It's time! We'll come and build!
 3. O Lord, against these days, Inspire some for Your building, Just as in Ezra's day— A remnant who are willing To come and work in Your house, Oh, what a blessed charge! Your heart's desire, is our desire— We come, O Lord, to build.
 4. Within those whom You 'd call Put such a restless caring For building to give all— These times are for preparing The gates of hell cannot prevail Against the bulded Church! The hours are few, the builders too— Lord, build, O build in us!
- (Repeat the last four lines)

日補 601 建造と合一—召会のための献身

1. おもいだそう ダビデのちかいを わがやいらす まどろみあたえず 主のためところを 見いだすまでは 全能者の住まいを もとむまでは
2. 主のいえ、いま 荒れすたれている 盲もくなわれ つらぬきたおせよ やま行き、木を切り いえを建てよう いつかと言わずに ときはいまぞ！
3. 霊を感動され 主のいえのために ダビデの日の ようにのこるものよ 主のいえの作業に とりかかれよ ながねがいわがねがい 建造をもとむ！
4. 建造にすべて ささげるものあり やすまずいま そなえをするとき 建造された教会に よみのもんも 打ち勝つことなし 主を賛美せよ！